

かわいい子は勝手に旅をする ～オホーツク海沖合で採集されたオオカミウオの子供～

◆魚の子供を調べる意義

1914年にノルウェーの水産資源学者であるHjørtは、仔稚幼魚、いわゆる魚の子供の生き残りの良否が資源の水準を左右する、という仮説を提唱しました。一般的に魚の子供は泳ぐ能力が乏しく、うまく餌が食べられなかったり、捕食者に食べられたり、生存に不適な環境に流されたりすることで死亡しやすいため、十分に成長するまで生き残ることができるのはほんの一握りです。生き残った子供がやがて親となって新たな世代を生み出すことから、子供の生態や生き残る条件を調べることは、漁獲対象種であれば持続的な資源利用に検討するうえで重要であり、それ以外の種についても生物多様性や希少種の保全に役立つ重要な研究といえます。このような背景から、道総研でも卵や子供の生態解明を目的とした様々な調査研究が行われています。

◆調査船調査で採集された魚の子供

道総研が現在所有する3隻の試験調査船のうちの1隻、北辰丸は釧路を拠点として道東太平洋海域やオホーツク海を中心に活動しています。北辰丸が例年6月末～7月初旬にオホーツク海で実施しているのがサケ科魚類とホッケの子供の分布調査です。本調査では知床半島から紋別沖に至るオホーツク海の広い範囲に調査点を設けて、表中層トロールによる標本採集と海洋環境調査を実施しています(写真1)。この調査ではサケ科魚類やホッケの他にも様々な魚の子供が採集されています。今回紹介するオオカミウオもそのうちの1種です(写真2)。

◆オオカミウオとは

オオカミウオはアラスカ、ベーリング海、オホーツク海、サハリンなどに分布している寒海性の魚で、日本では北海道～東北海域に分布しています(中坊, 2018)。本種の英名(Wolffish)は両あご前部に強大な歯があり、風貌がオオカミに似ていることに由来し、和名もこの英名にちなんでいます。本種は大きくなると体長100cmを超え、ウニやタコ類、貝類、大型の甲殻類などを餌とします。大西洋に生息する近縁種は重要な漁獲対象種とされ、日本でも流通量は多くないものの食用とされています。アイヌの言い伝えでは、本種がとれるとニシンが豊漁になるとされ、大事に扱う風習があるようです。オオカミウオの親は水深



写真1 北辰丸における表中層トロールの操業風景(撮影:春日井 潔氏)



写真2 採集されたオオカミウオ

100 m 以浅の岩礁域に生息しています。産卵期は冬とされ、粘着質の卵の塊をメスがふ化するまでつきっきりで世話をします。本種は一生のほとんどを沿岸域で過ごしますが、子供の時期は例外で、Shubin *et al.* (2014) によると、春にふ化した後は沿岸域にとどまることなく、沖合域に分散することが報告されています。沖合で生活している間はオキアミ類や端脚類などの動物プランクトンをおもな餌とし、8月頃には再び沿岸域に戻り親と同じような生活を送るようになると考えられています。

2023年の北辰丸調査では、岸から100 km以上離れた、水深1,000 mを超えるような調査点でもオオカミウオの子供が採集されました(図1)。沿岸に近い調査点では採集されなかったことから、先行研究で示されているように、産卵場付近から自ら泳いで、あるいは海流に流されることで沖合域まで分散していると推察されます。体長範囲は52~128 mm(平均83 mm)と幅広く(図2)、ふ化した時期や海域の違い、生息環境に起因する成長の良し悪しが要因として考えられます。

◆オオカミウオだけじゃない、沖合をさすらう魚の子供

北辰丸調査では、オオカミウオ以外にも様々な魚の子供が沿岸から離れた沖合域で採集され、なかでもホカケアナハゼやケムシカジカといったカジカの仲間が目立ちました(写真3)。両種とも親は沿岸域に生息しているとされますが、オオカミウオ同様、子供の分布は異なるようです。今後、調査海域の水温や塩分、流れといった海洋環境や餌環境などとの関係を調べることで、謎の多い旅の意味を探りたいと思います。

◆文献

中坊徹次編. 小学館の図鑑Z 日本魚類館. 小学館, 2018, 544 p.

Shubin AO, Faizulin DR, Atamanova IA, Baranchuk-Chervonnyi LN, Gulyaev VV. Bering Wolffish *Anarhichas orientalis* (Anarhichadidae) off the Coasts of Sakhalin and the Kuril Islands. *Journal of Ichthyology* 2014; 54: 678-691.

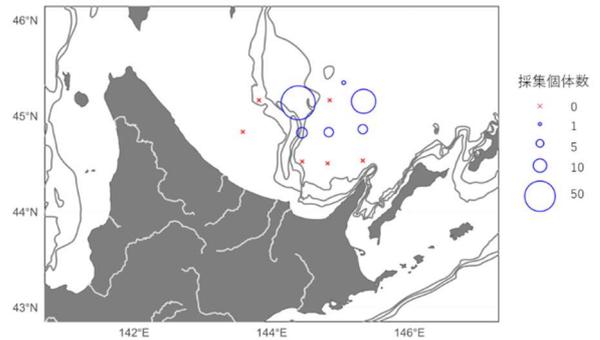


図1 各調査点におけるオオカミウオの採集尾数(2023年6~7月)

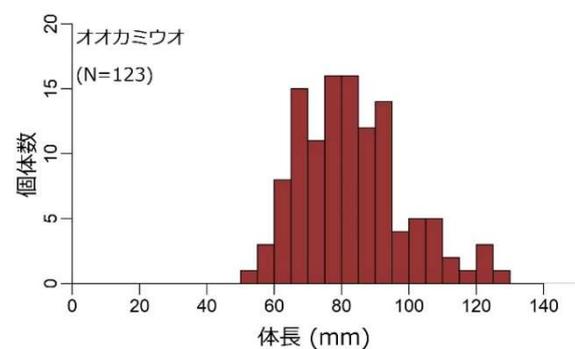


図2 採集されたオオカミウオの体長組成(2023年6~7月)



写真3 採集されたホカケアナハゼ(左)とケムシカジカ(右)